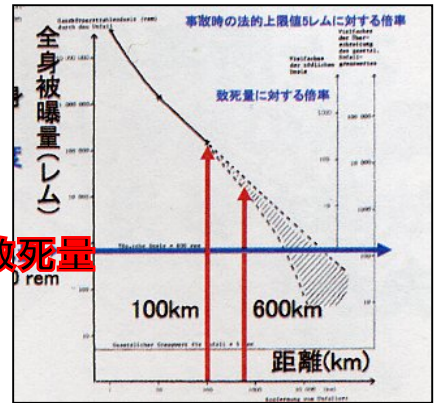


世界の再処理工場の大事故例 あるいは シミュレーション

西ドイツ政府の秘密報告



強烈な被ばく事故をもたらす。
600km離れても死者が出る。

高レベル放射性廃液が 環境に漏れた場合

一九七六年西ドイツ政府は、当時再処理工場の候補地だった北部のアッシエンドルフで再処理工場が事故を起こした場合の高レベル放

ウラルの核惨事

一九五七年九月二九日、ソ連のキシユテム軍事用再処理施設で、高レベル放射性廃液の入った液体廃棄物貯蔵タンクが爆発を起し、一帯が廃墟となる大事故が起きました。約七京ベクレルの放射性物質(ストロンチウム等)が飛び散り、チェリヤピンスク

射性廃液の飛散をシミュレーションしました。その結果が右図です。何と当時の「西ドイツ国民の半数が死ぬ」という数値が出て大問題となり、西ドイツは「再処理」から撤退しました。

一帯の町を、幅三〇〇〜五〇〇km長さ三〇〇kmにわたり、一平方kmあたり最大七四〇億ベクレルという高濃度で汚染しました。冷戦下で事故は秘密にされました。現在、当時の様子が次第に明らかにされ、病院は満杯になり数千人の患者が死んだといっています。

仏、ラ・アーグ再処理工場 全電源喪失事故

一九八〇年四月一日
フランスのラ・アーグ再処理工場

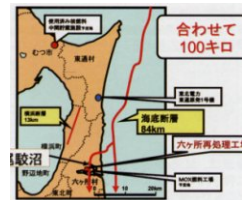
で事故が発生しました。電気系統が故障し主電源が停電。自家電源に切り替えられたが主電源回復時にトランスが破壊し全ての電気回路が停止。タンク内は廃液が沸騰し始め放射性セシウムの蒸気も出ました。二〇〇m離れた兵器庫から緊急発電機をトラックで運び込みぎりぎりのところで爆発を回避。爆発すればヨーロッパ全土消滅と言われました。

米国ハンフォード再処理工場 潜在的危険性

核施設安全委員会は一九九〇年七月、ハンフォード再処理施設の地下タンク爆発の「潜在的危険性」を指摘しました。一つは二重槽タンクの水素爆発、もう一つは一重槽タンクの化学物質の爆発の恐れについて。

六ヶ所再処理工場を取り巻く危険

直下活断層



大津波



火山活動



軍用機事故

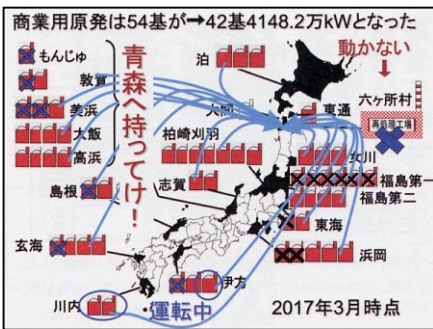


落雷事故 送電線事故

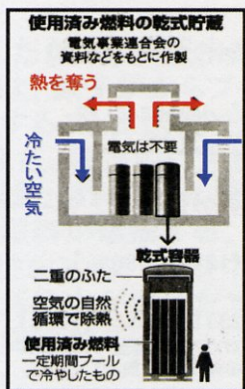


石油備蓄基地タンク火災

日本中の原発から 使用済み核燃料が青森へ



使用済み核燃料は 各地原発で乾式空冷で貯蔵せよ!



なぜいつまでも危険なプールの貯蔵を行っているのか。「ドライキャスク」にすれば、空気が自然循環をして使用済み核燃料を冷却出来るので、電気は必要なく、全く安全になる。
(朝日新聞二〇一七年一月二日)

◆今すぐ全ての原発は止めよう！ 地震が続く中、原発は止めなければならぬ。原発がなくても電気は足りている。使用済み核燃料は乾式空冷貯蔵にすれば危険リスクが軽減する。そうすれば、再処理工場に送る必要もなくなる。なぜそうしないのだろうか？

◆再処理工場からは即時撤退すべき。結局、プルトニウムは発電には使えず原爆にしか使えない。再処理をやめれば、超危険な高レベル放射性廃液は出来ない。なぜやめられないのだろうか？

◆大事故を防ぐために。危険極まりない廃液を減らすため、工場廃止を前提にガラス固化の技術を早期に確立すること。工場は停止し、深層防護に徹し配管や貯槽からの漏洩事故や、臨界事故を絶対に起こさないこと。

◆大事故の危険を回避するための行動は、立場を越えて一致出来る。みんなが自分の問題として考え発言することだと思おう。(尚)

第二の原発事故を防ぐために。
講演を取材して思っています。